

With コロナ時代の安全な専門家支援を行うための諸準備

ICT を使いこなして 感染リスクを最小に抑えましょう

可能な範囲で非対面により情報提供・課題共有などをすすめる事で、接触機会を低減したサービス提供が可能となり、感染リスクを減らす事が出来ます。テレビ会議 (ZOOM)、LINE、Facebook、電子メール、電話、映像提供など、非対面型コンサルティング支援がその基本となるため、事前にそれら使い方を習得しましょう。



換気が可能な環境を作ろう

具体的換気改善には様々な計測が必要ですが、支援受け入れの時点でもそれらを意識する必要があります。窓を解放したうえで室内の空気の流れを確認して、空気の流れに対して直角の状態ですべての座席を配置することで、相手の吐く息が直接かからないようにしましょう。基準として二酸化炭素濃度が 1000ppm 以上に上昇したら支援を中止します。

濃厚接触者にならない支援

濃厚接触と判断する目安は「1m 以内かつ 15 分以上の接触」とされています。対面での打ち合わせなどではこれら条件を意識して実施することが重要です。また、一般的通念として 2m がソーシャルディスタンスとして認識されていますので、それら基準を遵守する必要があります。



衛生管理に関する基本的な 3 つの考え方



衛生管理を行うことで感染リスクの低減が可能です。まずはできることから取り組みましょう

1 衛生管理担当者

衛生法規や業種別ガイドラインを熟知し、責任を持って衛生状態を把握できる人を決める必要があります。その方の指示に従った対策が必要です。



2 リスクの箇所の消毒

ドアノブなど手が触れる場所
(レジ、ドアノブ、手すり、エレベーターのボタン、テーブル、イス、カラオケマイク、ダーツ、電気のスイッチ、トイレ、蛇口、洗面台等)

他者と共有する物品

(調味料、箸入れ、食器、メニューブック、タッチパネル等)

3 マスク着用及び手洗い

対面での支援ではマスクの着用と手洗いの徹底が必須となります。消毒液を利用した手洗いなどをこまめに行うことで、ウィルス拡散のリスクを抑えられます。

